JFAアカデミー福島16期生 決意を胸に

▲入校式に参加したアカデミー生

東京電力福島第一原発事故で練習拠点を静岡県に移転していたJFAアカデミー福島男子は、4月6日(火)、Jヴィレッジで入校式を行いました。

入校式では、日本サッカー協会の田嶋会長があいさつし、内堀知事と遠藤町長が祝辞を述べました。

遠藤町長は、「入校生のみなさん、おかえりない。地域が一丸となって見守りますので、安心してお子さんを預けていただきたいと思います。」とあいさつを述べました。

今回入校した16期生は、19名。宮城県から長崎県まで13県から、親元を離れ、柊寮から広野中学校へ自転車で通学します。

「自分たちが活躍して、この地のみなさんを元気づけたい。」。入校式の田村悠真さんの言葉。夢に向かった挑戦が再び広野町から始まります。

▲広野中学校入学式の様子

▲交通安全教室に参加するアカデミー生

決意表明

東日本大震災から10年。

幼かった僕は震災当時のことは、そこまで鮮明には覚えていません。

しかし、この場所が非常に大きな被害から復活をとげた希望に溢(あふ)れる土地であることは理解しています。

そして昨年は新型コロナウイルスにより、改めてサッカーが出来る日常の尊さを痛感した一年でした。

今後も僕たちに厳しい困難が降りかかることもあると思います。

けれど、それを僕は言い訳にしません。

どんな時でもポジティブに困難を乗り越えて、強さと自信に変えていきます。

福島で生まれ育った僕は「JFAアカデミー福島に入る」という目標を胸にこれまでトレーニングに励んできました。今日、こうやって皆さまの前でその目標をひとつ果たすことができたこと、そして、この福島の地でJFAアカデミー福島の一員として活動が行えることを大変嬉しく思います。

僕には夢があります。

それはあらゆる場面で世界と渡り合える真の国際人になることです。

その夢を叶える為に、親元を離れ、強い意志と覚悟をもって今日を迎えました。

この地で過ごす3年間、JFAの一員としての責任と誇りを胸に、素晴らしい環境の中で同じ志をもった19名の仲間と切磋琢磨しながら、その夢の実現に向け努力を重ねます。

そしてアカデミー福島での活動を通じて、どんなときでもポジティブな態度で何事にも臨める心のたくましさを身に付け、自信に満ち溢れた立ち居振る舞いの出来る人間に成長していきます。

幼き日の僕がそうだったように、今の小学生から目標とされるような選手になります。

そして僕たちが活躍することで、この地の皆さんを勇気づけます。

3年後の僕たちの成長を楽しみにしてください。応援宜しくお願いします。

JFAアカデミー福島16期生
田村 悠真

▲タブレットを利用して授業を受ける一年生